

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 075	提案機関名 神奈川県酪農業協同組合連合会
要望問題名 牛が食べられるコピー用紙の開発	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 世界的な穀物需給のひっ迫による飼料の高騰は畜産経営、特に酪農経営では危機的な状況となっている。飼料の自給率を高める方策として、都市で利用している素材を牛のえさにすることができれば画期的な打開策となる。先日、小麦のふすまや食物の皮などの食品廃材を、食器「edish」に成形し、飲食店へ提供、さらに使用後に回収し堆肥化して土の栄養とし、野菜や花として再び調理や飲食の場に戻という事例が報道されていた（参考）同様にふすまやパルプなど牛が食べることのできる素材を用いビジネスで大量に使用する容器やコピー用紙を作成し、ビジネス等で使用後リサイクルループを構築し、牛の飼料とすることを研究課題として取り組んでいただきたい。	
参考：720477e6078f8ce3f1933b9a53482fe8.pdf (jftc.jp)	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	対応の内容等 コピー用紙等の古紙を牛の飼料として利用するためには、摂取可能な形状への加工や嗜好性を高めるための調製が必要になると推察されます。また、分別回収、インクやトナー等の異物の除去が不可欠になると考えられます。ご提案の課題はSDGsの達成に向けた研究と考えられますが、当所としては現在の飼料価格の高騰に対応するためには、自給飼料やエコフィードの利用拡大のための研究が優先課題と考えられています。 木材チップ由来のクラフトパルプ飼料（高消化セルロール）が製品化されており、牛の第一胃内発酵を安定化させる効果が期待されます。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考	「農研機構, 畜産部門2019年成果情報」 https://www.naro.go.jp/project/results/4th_laboratory/nilgs/2019/post_113.html		